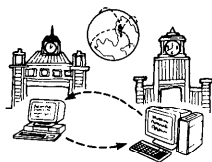


巻頭言



より良い学会活動を目指して

—会員の直接参加の促進—

鈴 枝 進†



連日、マルチメディア等の新技術に関するニュース記事が一般の新聞に掲載され、また、新聞にパソコン等の広告が一面全部を使用して出るような時代となり、情報処理の分野における変革期を迎えています。この様な中で、当情報処理学会の使命、役割は益々その重要性を増しています。

学会の活動は、ご存じの通り、学会誌、論文誌の発行、研究会活動、全国大会、情報規格調査活動等、多方面にわたりますが、これを、会員個人の視点からみますと、次のようになります。

- ① 学会誌を読む
- ② 論文誌、学会出版物等を読む、調べる
- ③ 論文誌等に投稿する
- ④ 研究会活動に参加する
- ⑤ 全国大会、連合大会に参加する
- ⑥ 国際会議に参加する
- ⑦ セミナ、シンポジウムに参加する
- ⑧ 情報規格調査活動に参加する
- ⑨ 役員等で、学会運営に参加する

上記の中のいくつか、または大部分に参加されている会員も大勢いますが、①の「学会誌を読む」だけの会員もかなりの数になるようです。特に一般企業のSE等、実務家の会員にこのタイプの人が多く、学会に対して受け身の状態であり、大変残念な状況です。

現在の学会会員数は、3万人強で、ここ数年横ばい状態です。毎年、新規加入者もありますが、退会者も少なからずいますので、「魅力ある学会」作りがさらに必要となります。

学会では、「学会活動活性化委員会」を設け、各種の項目について具体的な検討をしています。例えば、学会誌に実務家向けの記事を企画するため、編集委員会に実務経験者を多く参加してもらうこと、あるいは、研究会の活性化、全国大会の運営方式の見直し、等々です。できるところから実行し、少しでもより良い学会運営を目指しています。

私は現在事業担当として、全国大会、連合大会、各種セミナ等を受け持っています。全国大会は、年2回開催しており、昨年度は、秋に鳥取大学で第47回大会、春に東京理科大学で第48回大会を行いました。第48回大会では、招待講演として、「超並列処理の展開」ならびに「リエンジニアリングの動向」、パネル討論として、「感性情報処理」をテーマに行い、大変好評を得ました。しかし、論文発表の方を量的に見ますと、3日間で1,055件でした。

約千件の論文発表は、約10年前の大会で既に行われており、当時の会員数は約2万人でした。絶対数で、横ばいであり、会員数比率でいうと、大幅に低下しています。質の面では、熱心に質疑が行われた発表会場もあり、またそうではないような会場もあり、評価は大変難しいのですが、全体として見て、全国大会は質、量ともに改善の余地があるという状況です。

現在、全国大会の論文発表方式は、「無審査制」となっています。広く大勢の人達が、自由に論文発表ができるという、大変大きなメリットがあります。反面、折角の論文が業績評価につながらないという声もあります。一部、事前に査読をする「審査制」の導入や「シンポジウム方式」の導入等も検討が考えられます。

学会主催の連続セミナも、毎年開催しています。今年度は、「ビジネス・プロセス・リエンジニアリングのための最新情報テクノロジーの理論と実践」と題して行っています。6回連続のうち、1回目をこの5月に行い、好評を得ました。引き続き、時流に合った適切なテーマを選び、多くの人に参加できる企画を実施していきたいと思っています。

以上、その一部を紹介しましたように、現在、「魅力ある情報処理学会」作りに努力しています。会員の皆さんの積極的な学会活動への直接参加をお願いいたします。

(平成6年5月26日)

† 本会理事 鉄道情報システム(株)